徳島新聞　令和2年7月4日（土）

PCR検査機器 徳大病院に導入へ

県内 1日当たり 能力40件増

新型コロナウイルスの感染拡大に備え、感染症指定医療機関の徳島大学病院（徳島市）が、感染の有無を調べるPCR検査機器を1台導入する。県内では、県立保健製薬環境センター（同市）の4台と合わせて5台になり、1日当たりの検査能力は40件増の232件になる。

徳島大学病院が導入するのはウイルス特有の遺伝子を増やして検出する「リアルタイムPCR装置」。最新の試薬を用いることで、従来は結果が出るまで4～6時間かかった検査時間が2時間程度になる。検査工程の簡略化や医療従事者の負担軽減につながる自動抽出装置なども備える。

徳島赤十字病院（小松島市）もPCR検査機器を導入する。県が両病院の導入費用として本年度一般会計補正予算に2420万円を計上している。感染の第2波に備え、今後も公立・公的病院への配備を増やす方針。

一方、保健製薬環境センターは、5月から公的医療保険の適用対象になった抗原検査を導入する。PCR検査よりも精度が劣るとされるものの、結果が30分程度で判明するため、クラスターが発生した高齢者施設や学校などでの使用を想定している。

（山口和也）

大塚シロアリ ☎643-0666 国府町